

## (7) 球 根 類

### ○ ユ リ

#### 主要病害虫別防除方法

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
ウイルス病 (CMV、LMoV、 ASGV、LSV、 TMV、TBV)	①繁殖には健全株の母球を用いる。 ②発病株は早めに抜き取り、適切に処分する。 ③発病株を切った刃物などは、消毒（火炎など）してから使用する。 ④目合い 1mm 以下の防虫ネットにより、アブラムシ類の侵入を防止する。	①アブラムシ類に適用のある農薬を処理する。 (例) アセタミプリド水溶剤（モスピラン顆粒水溶剤）（花き類・観葉植物（ストック、りんどうを除く）） イミダクロプリド粒剤（アドマイヤー 1 粒剤）（花き類・観葉植物（きく、ばら、ペチュニア、レザンファンを除く）） クロチアニジン水溶剤（ダントツ水溶剤）（花き類・観葉植物） ジノテフラン粒剤（アルパリン粒剤、スタークル粒剤）（花き類・観葉植物（きく、カーペラを除く）） ニテンピラム水溶剤（ベストガード水溶剤）（花き類・観葉植物（ばら、きくを除く））
<b>【参考事項】</b> 保毒球根による伝染や汁液伝染のほか、CMV、LMoV、LSV、TBV はアブラムシ類の媒介により伝染する。		
葉枯病 ( <i>Botrytis</i> )	①日中は十分な換気を行ったり、暖房機を利用するなどして多湿を避ける。 ②密植を避けたり、老葉を除去するなどして通風を確保する。 ③発病葉や発病花は直ちに除去して、適切に処分する。	①発病初期から農薬を散布する。 (例) ペンチオピラド水和剤（アフエットフロアブル） チオファネートメチル水和剤（トップジンM水和剤） メバニピリム水和剤（フルビカフロアブル） TPN 水和剤（ダコニール 1000）
<b>【参考事項】</b> 菌の生育適温は 20℃前後で、分生子の形成は 16℃前後が好適である。梅雨期と秋雨期に発病しやすい。		

### ○ グラジオラス

#### 主要病害虫別防除方法

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
首腐病 (細菌)	①連作はできる限り避け、排水の良いほ場を利用する。 ②種球は無病のものを選ぶ。 ③発病株は、速やかに除去して適切に処分する。	①は種又は植付前に土壌混和する。 (例) ダゾメット粉粒剤（ガスタード微粒剤、バスアミド微粒剤）（花き類・観葉植物）
<b>【参考事項】</b> はじめは、地際付近の葉鞘に黒褐色の斑点があらわれる。 球根にはへこんだ黒褐色、円形の病斑があらわれる。		
グラジオラス アザミウマ	①発生地から採取した球根の植付けはできる限り避ける。 ②前作の茎葉や残さを除去し、適切に処分する。	①発生初期から農薬を処理する。 (例) アセタミプリド水溶剤（モスピラン顆粒水溶剤）（花き類・観葉植物（ストック、りんどうを除く）） トルフェンピラド水和剤（ハチハチフロアブル）（花き類・観葉植物） プロチオホス乳剤（トクチオン乳剤）（花き類・観葉植物（ばら、きく、プリムラ、シクラメン、ペゴニア、宿根かすみそうを除く）） ベンフラカルブ粒剤（オンコル粒剤 5）（花き類・観葉植物（きく、ストックを除く））（生育期に株元散布） (以上、アザミウマ類)
<b>【参考事項】</b> 本種は、球根にも寄生する。		

## ○ 球根類全般

### 主要病虫害別防除方法

病虫害名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
球根腐敗病 ( <i>Fusarium</i> ) 緑かび病・青 かび病 ( <i>Penicillium</i> )	①植付け時、種球を厳選して被害球を使用しない。 ②連作を避け、無病地で栽培する。 ③排水を良好にする。 ④窒素過多を避ける。 ⑤発病株は速やかに除去して適切に処分する。 ⑥掘取りは晴天が続いた日に傷つけないように行い、掘りとった種球は陰干しして通気性の良い場所に貯蔵する。	①は種又は植付前に土壌混和する。 (例) ダゾメット粉粒剤 (ガスタード微粒剤、バスアミド微粒剤) (球根腐敗病) (花き類・観葉植物) ②下記農薬で球根掘取り時又は植付け時に浸漬処理する。 (例) キャプタン水和剤 (オーソサイド水和剤 80) (チューリップ (球根) 青かび病)
ネダニ	①連作を避け、寄生の少ない作物 (ウリ、ダイズ、ショウガ、ヤマイモなど) と輪作する。 ②球根貯蔵場所の通風を良くし、高温を避ける。 ③ロビンネダニは 45℃、10 分以上処理すると死滅するが、球根の温湯処理を実施する際は、高温による障害に注意する。 【参考事項】 年に十数回の世代を繰り返す。元来は地中で生息するが、収穫終了後掘りあげられた球根に付着して貯蔵中も加害、繁殖を続ける。	①下記農薬で植付け前に球根を浸漬処理する。 (例) フルキサメタミド乳剤 (グレーシア乳剤) (ユリ) ②定植時に農薬を植穴土壌混和する。 (例) ジメトエート粒剤 (ジメトエート粒剤) (ユリ、チューリップ)